

目的

県内ではヤマメ（川で一生活を過ごすもの）やサクラマス（海へ降り大型になって川に戻ってきたもの）釣りが行われているが、その利用実態は明らかになっていない。そこで、今後の持続的利用に向けた取組に役立てるべく、釣果情報を収集し、県内主要河川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲実態を調査した。

方法

釣果情報 県内主要河川におけるヤマメとサクラマスの釣果状況を把握するため、栃木県水産試験場ホームページ上に「サクラマス・本流ヤマメ・戻りヤマメの釣獲魚情報投稿フォーム」（Google フォームを使用）を開設し、釣り人から2023年シーズン（3月1日から9月19日）における釣果情報を収集した。¹⁾

結果および考察

那珂川におけるヤマメとサクラマスの釣獲尾数 2023年は8名の釣り人から13件の投稿があった。外部形態の特徴から生活史型を判別した結果、ヤマメが61.5%（8尾）、サクラマスが38.5%（5尾）であった（図1）。また、サクラマスの最大釣獲個体は全長42cmであった。

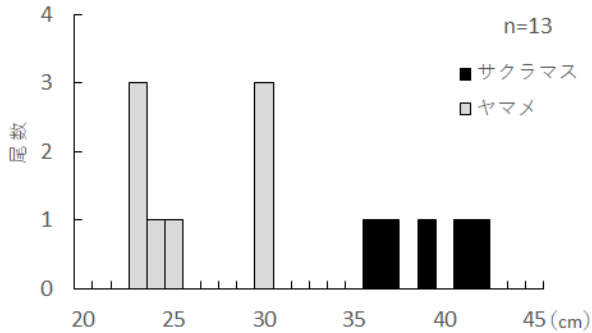


図1 那珂川におけるヤマメ・サクラマスの全長組成

那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲時期 那珂川のヤマメ・サクラマスは3月上旬から9月中旬まで釣獲され、ヤマメでは3月上旬から中旬と5月中旬、7月下旬から9月中旬、サクラマスでは5月下旬から8月上旬にかけて釣獲されていた（図2）。那珂川では4月から7月がサクラマスの遡上時期とされており、²⁾今年度の釣獲時期は遡上時期と概ね一致していた。

那珂川における釣り方別釣果とリリース状況 報告のあった8名の釣り人全員がルアー釣りにより13

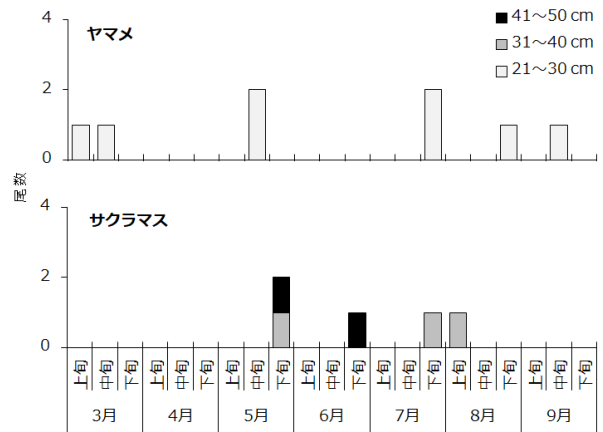


図2 那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲時期

尾を釣獲していた。釣獲魚のリリースは8名中4名が実施しており、リリース割合は46.2%だった。

鬼怒川におけるヤマメの釣獲尾数および釣獲時期 2023年は21名の釣り人から79件の投稿があった。全長31cm以上の大型個体は43尾釣獲され、最大釣獲個体の全長は46cmであった（図3）。40cmを超える個体

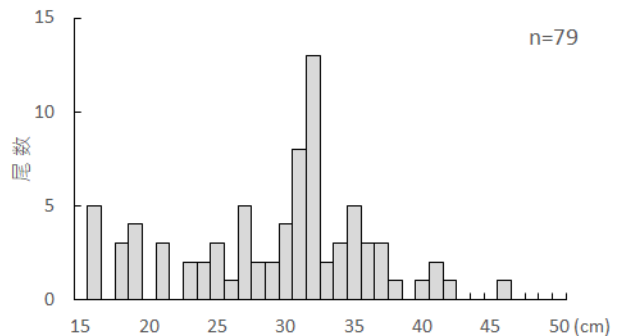


図3 鬼怒川におけるヤマメの全長組成

は6月以降に釣獲される傾向があるが、³⁾今年度についてもこれまでの報告と同様の傾向が確認された（図4）。

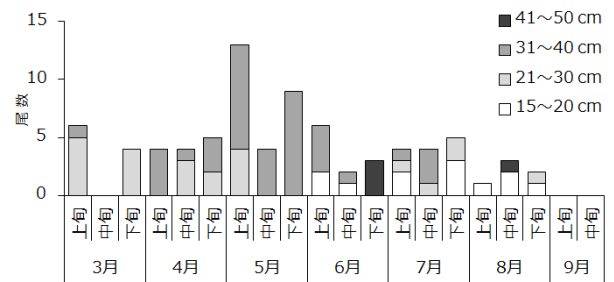


図4 鬼怒川におけるヤマメのサイズクラスごとの釣獲時期

鬼怒川における釣り方別釣果とリリース状況 投稿のあった21名の釣り人のうち10名がルアー釣りにより44尾, 8名が餌釣りにより14尾, 3名がフライ釣りにより14尾を釣獲していた。釣獲魚のリリースは21名中15名が実施しており, リリース割合は88.6%と高水準だった。

引用文献

- 1) 網川孝俊・横塚哲也. 那珂川水系におけるヤマメ・サクラマス釣獲状況 (平成29年度). 栃木県水産試験場研究報告. 2019; 62: 43.
- 2) 網川孝俊・白井厚太郎. 那珂川に生息するヤマメ・サクラマスの回遊履歴の推定. 栃木県水産試験場研究報告. 2018; 61: 56-58.
- 3) 渡邊長生・横塚哲也・小堀功男. 県内主要河川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲状況. 栃木県水産試験場研究報告. 2020; 64: 45-46.

(指導環境室)